離さない（川上弘美）　＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

人魚がいた。浴槽の三分の一くらいの高さに張られた水の中を、人魚が泳いでいた。端まで行ってくるりと反対側を向き、違う端まで行くとまた反対側に向く。何回でもそれを繰り返す。ゆっくりと、人魚は、浴槽の中を往復しているのだった。潮の匂いが強かった。さきほど玄関で感じたのは、この潮の匂いだったのだろう。人魚は長いｱカミを水の中にゆらめかせながら、こちらを見ることなく、往復を繰り返していた。

「こういうわけなんで」とエノモトさんが言った。

そういうわけか、と答えたが、何が「わけ」なんだか、人魚はわたしたちが入っていってからずっと往復しつづけている。

ずっとこういうふうに泳いでるの？　聞くと、エノモトさんは頷き、

「腹が減ってないときはたいがいね」と答えた。

人魚、と言いかけたがやめにして、Aこのひと、とわたしは言いなおした。人魚が人語を解するかどうかわからなかったが、自分が人間以外のものに「人間」と呼び捨てにされたら気分悪かろうと思ったからである。「このひと」という指示が適切であるかどうかは難しいところだが。

このひと、ずっといるの？

「いるよ、ぼくが連れて帰って以来」エノモトさんは言い、浴槽の横に置いてある盥から鰺を一匹取り出して、人魚に手渡した。

人魚は泳ぎを止め、鰺の頭としっぽを両手でおさえた。浴槽の壁に寄りかかり、ちょうどハーモニカを吹くような様子で、鰺の頭からしっぽまでを口でなぞる。一回なぞるごとに鰺はきれいに削ぎとられてゆく。なんとも優雅な食べかただった。一片も食べ残すことなく、水を汚すこともなく、人魚は鰺を食べつくした。もう一匹渡すと、同じようにして食べる。五匹も食べただろうか。いつまでも人魚が鰺を食べるところを見ていたかったが、エノモトさんはそれ以上は渡さなかった。最後の一匹を食べてしまうと、人魚はふたたび浴槽を往復しはじめた。エノモトさんが浴室を出ていったので、わたしもしぶしぶ浴室を後にした。人魚のそばを離れたくなかった。

「出てきたくなかったでしょ」二杯めのコーヒーをいれてくれてから、エノモトさんが言った。

え？と聞き返すと、

「浴室から」エノモトさんは言った。

そういえばそうだったかも。答えるうちに、B人魚のそばを離れたくなかった気分をはっきりと思い出した。

「どうやらそういうものらしい」いにしえの昔から、人魚はそういうものと決まっているし、などとエノモトさんは言い、人魚がいかに人を惹きつけて離さないかをしばらく説明した。

二か月前の夜、エノモトさんは人魚をｲアミからはずし、民宿の部屋に連れ帰ったのだ。あんがい人魚は軽かった。水でｳヌらした布でくるんだ人魚をビニール袋に入れ、エノモトさんはそのまま人魚を家まで連れてきてしまったのだという。交番に届けるなりなんなりすればいいようなものを、Cなぜ連れて帰ってしまったのか、そのときにはエノモトさんにはわからなかった。連れ帰るのが不自然であるということにも気がついていなかった。ただ、どうしても連れて帰りたく、いくら軽いといっても大きな荷物になる人魚を袋に詰めて連れてきてしまったのだ。

交番に届けるものなの？　と聞くと、エノモトさんはD顔をしかめ、

「ぼくはｴ真面目に話してるんだから、真面目に聞いてよ」と言った。

真面目に聞いてますよ、真面目にｵ拾得物の処理方法について考えてるんだわよ。わたしも言ったが、エノモトさんはわたしの言葉にはとりあわず、話を続けた。

最初は、人魚の泳ぐ様子や魚を食べる様子が面白くて離れがたいのだと思っていた。ところがそのうちに、勤めに出るのが①おっくうになってきた。朝魚をやると、もういけないの思いで勤めに出るが、働いている間じゅう、人魚のことが気にかかってしょうがない。一刻も早く終業時間がきてほしいと②切望してしまう。生徒にものを教えていても昼飯を食べていても職員会議に出ていても、E気はそぞろである。飛ぶように家に帰って浴室に行く。人魚はただ泳いでいるばかりなのだが、泳いでいる姿から目が離せない。画を描こうと思って画布に向かっても、すぐに浴室に足が向いてしまう。一日に何十回も浴室を覗く。そのうちに浴室に入りびたりになった。眠るときと食事のとき以外は浴室にいる。人魚のそばにいれば落ちつくのだ。人魚のそばで本を読んだり仕事をしたりする。

しばらくはFその状態で満足していたが、ある朝どうしても人魚から離れることができなくて、欠勤してしまった。そ

のときから今まで五回も欠勤している。このままではいけないと思い、きみに相談することにした。

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の片仮名は漢字に改め、漢字はその読みを平仮名で答えなさい。

問二　傍線部①「おっくう」、②「切望」の意味をそれぞれ答えなさい。

問三　波線部Ａ「このひと、とわたしは言いなおした」のはなぜか。「わたし」が「人魚」をどのような存在としてとらえているかを踏まえて、説明しなさい。

問四　波線部Ｂ「人魚のそばを離れたくなかった気分」が「わたし」の行動に表れている一文を本文中から抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問五　波線部Ｃとあるが、「エノモトさん」は人魚を連れて帰ってしまった理由をどのように考えているか。二十字以内で説明しなさい。

問六　波線部Ｄ「顔をしかめ」たのはなぜか。その理由として適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　拾得物を交番に届ける義務を怠ったことを「私」に指摘され、動揺したから。

イ　「人魚」を生き物ではなく、モノとして語っている「私」に腹が立ったから。

ウ　「私」の素朴な質問が、話の腰を折るようなものに思えて不愉快だったから。

エ　「私」の質問を受けて、「人魚」は交番に届けるべきものか悩んでいたから。

問七　波線部Ｅ「気はそぞろである」と反対の意味の言葉を、本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問八　波線部Ｆ「その状態」とはどういう状態か。四十字以内で説明しなさい。

問八		問七	問六	問五	問四	問三		問二		問一
					はじめ			②	①	ア
										イ
					終わり					
										ウ
										エ
										オ

学年
組
番号
氏名
得点

離さない（川上弘美）＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、漢字の書き取りと読み。問二、語句の意味の確認。問三、直前の心情をわかりやすく説明する。問四、「私」の心情が「しぶしぶ」という行動に現れていることに着目する。問五、文脈理解。問六、「真面目な話」という台詞に着目する。問七、語句の意味の確認。「人魚」のそばにいるときといないときで、精神状態が変わっていることに注意する。問八、直前の内容を整理する。わかりやすく書くこと。

☆解答例と配点

問一　**ア**　髪　　**イ**　網　　**ウ**　濡　　**エ**　まじめ　　**オ**　しゅうとくぶつ　〈２点×５〉

問二　①　何かをするのに気が進まず、面倒くさい気持ちであること。②　熱心に望むこと。〈２点×２〉

問三　人間と同等の高度な意識を有する存在だと思われる人魚が、「人魚」という言葉でひとくくりにされたら気分が悪いだろうと思ったから。〈10点〉

問四　エノモトさ～後にした。〈４点〉

問五　人魚が人を惹きつけて離さない存在だから。（二十字）〈４点〉

問六　ウ〈４点〉

問七　落ちつく〈４点〉

問八　勤めのときと眠るときと食事のとき以外は浴室の人魚のそばで過ごしている状態。（三十七字）〈10点〉

計50点

離さない（川上弘美）　＊＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

「帰す」エノモトさんがァシボりだすような声で言った。Ａ口を開くとささきほどの甘い声が出てしまいそうなので、わたしはィケンメイに歯を食いしばった。無言で、エノモトさんと一緒に人魚をかかえ、水の中に入った。靴が濡れたが、かまっていられなかった。エノモトさんが尾ひれをつかみ、わたしは脇に両手をさし入れ、二人して人魚をかかえた。膝より上が水に漬かるあたりで、エノモトさんは、

「ここらにしよう」と言った。

「せえの」とエノモトさんは掛け声をかけた。こんなときに悠長な声を、と思ったが、何回エノモトさんが「せえの」と言っても、二人の手は人魚から離れないのだった。

むつかしいわよ。わたしが言うと、エノモトさんは少し笑った。エノモトさんの笑いを見て、Ｂ人魚を離せそうな気がした。

せえの、と、今度はわたしが言い、ついに人魚を海に放り投げた。虹色のうろこをきらめかせながら、人魚はとぽんと波間に沈み、そのまましばらく姿を見せない。

帰したね。そうエノモトさんに向かって言ったとたん、人魚がわたしたちの間にぽっかりと顔を出した。驚いて海中に尻餅をついた。肩まで水に漬かり、服も何もかもがびしょ濡れになった。

人魚は、しばらくわたしの顔を見ていた。エノモトさんのほうは見ない。わたしだけを見ている。こんなに人魚の顔を真近で見たのは、初めてだった。ゥ白磁に切れ込みを入れたような目がわたしをじっと見ている。

やっぱり離れられない、とわたしは知らずに言おうとしていた。

離れられない。

その刹那、人魚が口を開いた。赤く薄いくちびるを開いた。

「離さない」

人魚は言った。

はっきりと響く声で、人魚は言った。

わたしの顔を見据えて、人魚は言った。

エノモトさんがいつか出した、うわあ、という声が、わたしの口からももれ出た。

Ｂうわあ、と言いながら、わたしは海岸に向かって走った。水のェテイコウがあるうえに、服も濡れているので、思うような速さで走れない。夢の中で走っているような感じだった。エノモトさんがわたしの手を引いてくれている。なにがなんだかわからぬまま、走っていた。ようやく浜に上がって荒い息を吐いていると、もう一度背後から、

「離さない」

という声が聞こえた。

耳をふさぎ、砂に顔をうずめた。

どのくらいそうやっていただろうか、顔をあげるとエノモトさんが目の前にしゃがんでいて、わたしの体には毛布がかけられてあった。

人魚はいつの間にか去っていた。沖にォギョセンが見える。

桜が、海岸にまで飛んできていた。砂の上に、花びらがうすく積もっていた。淡雪のようだった。濡れたわたしの髪にも、服にも、桜の花びらがついていた。しばらく散る桜を眺めていた。Ｄエノモトさんと一緒にしゃがんで、降りそそいでくる桜の花びらを、眺めていた。翌日からしばらく高熱を出して、体調がようやく元に戻ったころには、桜はすっかり散っていた。エノモトさんに電話をして、礼を言った。

「おいしいコーヒーいれますよ」とエノモトさんが言うので、階段をのぼってエノモトさんの部屋に行った。葉桜になった桜の木のてっぺんが、エノモトさんの部屋の窓から見えた。

「これからの季節はね、葉が出そろって、鳥がよく来るようになるよ」コーヒーをいれながら、エノモトさんが言った。

鳥か。鳥はいいな。わたしがぼんやりと答えると、エノモトさんは笑った。

「人魚よりはいいよね」そう言って、笑った。

人魚、なんだったんだろう。つぶやくと、エノモトさんは真面目な顔をして、

「魅入られたね」と答えた。

エノモトさん、どうして人魚を帰すことができたの。聞くと、エノモトさんは、

「きみだって、最後は帰せたじゃない」と答えた。

風が吹いて、桜の枝が揺れた。海岸で見た桜を思い出した。人魚のすがたかたちも、人魚から離れたくないという気持ちも、はっきりとは思い出せなかった。桜が散る様子ばかりを克明に覚えているのだった。

エノモトさんも、人魚にあの言葉言われた？　と聞くと、エノモトさんは頷いた。

「きみの部屋に人魚を預けに行って、浴室に閉じこもっていた、あのときに、言われた」エノモトさんは静かな声で言った。

わたしたちはしばらく黙ってコーヒーをすすった。

「Eずっと離さないでいるだけの強さがぼくにはなかったのかな」やがて、エノモトさんはしみじみした口調で言った。それはわたしもそうだったのかもしれない。ひっそりと答え、わたしは窓の外に視線を向けた。うすみどりの若葉が、どの木からも芽吹いていた。風が新緑を揺らしていた。Fわたしたちはいつまでもそれぞれに窓の外を眺めていた。

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の片仮名は漢字に改め、漢字はその読みを平仮名で答えなさい。

問二　波線部**A**「口を開くとさきほどの甘い声が出てしまいそう」と同様に、「私」の行動が「人魚」によって駆り立てられていることがうかがえる一文を本文中から探し、初めの五字を書き抜きなさい。

問三　波線部**B**「人魚を離せそうな気がした」のはなぜか。その説明として適切なものを次の**ア**～**エ**から記号で選びなさい。

ア　人魚を捨てようとすることの緊張感が緩められたから。
イ　人魚に対する未練をすっかり捨てることができたから。
ウ　人魚を海へ放り投げることは面白そうだと思ったから。
エ　人魚よりもエノモトさんの方が大事だと気づいたから。

問四　波線部**C**「うわあ、と言いながら、わたしは海岸に向かって走った」のはなぜか。説明しなさい。

問五　波線部**D**「エノモトさんと一緒にしゃがんで、降りそそいでくる桜の花びらを、眺めていた」とあるが、「桜の花びら」は何を意味していると考えられるか。次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人魚と共に過ごした日々への追憶
イ　人魚の儚い生き方にたいする畏敬
ウ　人魚が無事に生きることへの祈念
エ　人魚と人魚に関わる記憶との別離

問六　波線部**E**「ずっと離さないでいるだけの強さがぼくにはなかったのかな」とあるが、反対にこのような「強さ」を持っていると思われる存在は何か。本文中から一語で書き抜きなさい。

問七　波線部**F**「わたしたちはいつまでもそれぞれに窓の外を眺めていた」という表現からどのようなことが読み取れるか。波線部**D**の表現との違いに触れながら説明しなさい。

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
						ア
						イ
						ウ
						エ
						オ

学年
組
番号
氏名
得点

離さない（川上弘美）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、漢字の読みと書き取り。問二、「私」の行動に着目する。問三、登場人物の心情理解。問四、登場人物の心情理解。問五、「淡雪」にたとえられていることと、後半に「人魚」の記憶が薄れていることから判断する。問六、内容の確認。問七、「私」と「エノモトさん」、「人魚」の三者の関係を踏まえて解答を作成する。「それぞれに」という表現に注意する。

☆解答例と配点

問一　**ア**　絞　　**イ**　懸命　　**ウ**　はくじ　　**エ**　抵抗　　**オ**　漁船　〈2点×5〉

問二　やっぱり離〈4点〉

問三　ア〈4点〉

問四　人魚から離れないことは自分の意思によるものであり、人魚の処遇を自分で決定することができると思っていたが、人魚の言葉によって実際は人魚の方が優位にあることに気づかされて、恐ろしくなったから。〈10点〉

問五　エ〈4点〉

問六　人魚〈3点〉

問七　人魚の存在を共有したことによって「私」と「エノモトさん」は一時心を通わせたが、「離さないでいる力」がないことをお互いがそれぞれに自覚したことで、相手とは違うそれぞれの未来を見据えていることを表している。〈15点〉

計50点